新宿山吹だより

都立新宿山吹高等学校通信
令和２年度第３号
【令和２年６月１日】

新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

ミラー効果

校　長　　永浜　裕之

英語で「２週間」は何と表現するかご存じですか？
アメリカでは「Two weeks」、イギリスでは「Fortnight（フォートゥナイト）」が使われることが多いようです。イギリスでは、２週間単位で給料をもらう人が多い事情があり、独立した単語として定着したと言われます。「ハリー・ポッター」シリーズの英語版にも頻出している単語です。
世界中で「２週間」は、頻出する時間のくくり方になっています。
「あなたの行動が２週間後の未来を決める。」。新型コロナウィルスとの戦いは、毎日が２週間の始まりでもあり、終わりでもあります。もう３ケ月近くたつというのに、「頑張って休む。外に出ない。」ことは尋常ではありません。夕方頃にまとまる感染者の数にどぎまぎしながら、私たちは辛抱の日々を送っていますが、東京でも新規ＰＣＲ検査陽性者数の減少が見られます。「Fortnight（フォートゥナイト）」ではなく「心休めないと」と、一喜一憂する日々が終わり、普通の日々が近づいているのかもしれません。

さて、日本では罰則規定のない不要不急の外出自粛や休業要請に多くの人々が従っており、諸外国からは日本人の不思議として語られることもあるようです。私は、理由の一つに、「日本には欧米には見られない『世間』があるから」だと考えます。「世間」は、皆同じであるべきという「同調圧力」が働き、人々は行動を自主的に規制します。良い面もありますが、「自粛警察」と呼ばれる、負の側面も併せ持ちます。

唐突ですが、ここで、「倍返しの怪物」という外国の寓話を要約して紹介します。
ある村に恐ろしい怪物がいました。村と外を結ぶ道をふさぎ、困った村人が強力な武器で攻撃しても、その２倍の力で攻撃を返すという、不思議な力を備えていました。
最初の若者は、棍棒で立ち向かいましたが、その２倍の大きさの棍棒で攻撃を返されました。２番目の若者は炎で攻めましたが、その２倍の熱さの炎が返ってきました。
この様子を見たある若者は、リンゴと水を持って、怪物に挑みます。
彼がリンゴを１つ、怪物に与えると、怪物はリンゴを２つくれました。次に、水を１杯、怪物に飲ませると、水を２杯くれました。さらに彼がニッコリ笑ってみせると、怪物も笑顔を２度返してくれました。やがて人々は悟ったのです。接し方次第で、怪物は災いにもなり、恵みにもなるということを。
という話ですが、皆さんは、この話から学べることはありますか。言い換えれば、何を教訓としますか？　私は、次のように解釈します。
怪物は、相手のとった行動をそのまま２倍にして返していますが、「この世の中も同じようなものですよ」と言いたいのではないかと思います。つまり、社会では、良いことも悪いことも、自分がやったことは自分に返ってくるということです。

道を歩いていて、すれ違う人に「こんにちは」とあいさつをすれば、「こんにちは」とあいさつが返ってきます。しかし、無視すれば無視されますし、にらみつければ、にらみ返されます。他人はまるで、こちらの行動を映す鏡であるかのように行動します。
このような現象を、心理学では「ミラー効果」、あるいは「鏡の法則」と言います。
まさに「他人は自分の鏡」です。自分の周りの人を見れば、自分がこれまで人に何をしてきたかが、まるで鏡を見るかのようによくわかります。

人が笑いかけてくれないのは、自分が笑いかけていないから。
人が話を聞いてくれないのは、自分が人の話を聞いていないから。
人が助けてくれないのは、自分が人を助けていないから。　そういう場合がよくあります。

私たちは、何か悪いことの原因を他人のせいにする前に、一度自分の行動を見つめ直す必要があると思います。
何もせずに、周りの人が機嫌をとってくれるのは、赤ん坊のときだけです。成長するにつれ、自律して行動しなければなりません。

定時制課程の予定	通信制課程の予定
様々な連絡は、本校Web（ホーム）ページで行います。	様々な連絡は、本校Web（ホーム）ページで行います。